

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム めくもり(うめユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホームめくもり(うめユニット)		
所在地	岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	平成 29年 9月 30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detai.1.2017.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0393100128-00&Pref.Cd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、その人らしい生活スタイルを保持し毎日を生き活きと過ごせるように支援していく。利用者同士で助け合いながら毎日を過ごして時には喧嘩もあるが仲の良いユニットです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道45号線から少し入った三陸鉄道野田玉川駅に隣接し、敷地北側には程よい散策の場となっている町の農村公園、少し坂道を下ると海辺に至る静かな環境に囲まれている。全体を統括する施設長のもとに地域密着型特別養護老人ホーム、2ユニットのグループホーム、デイサービスが併設され、日頃の利用者の行き来から緊急時の協力まで相互に関わりを持ちながら機能しあっている。開設間際の東日本大震災では高台で被害を免れ2ヵ月遅れの6月にスタートし、現在は村が指定する避難所にもなっている。法人が掲げる理念のもと、一日を笑顔で楽しく過ごせるグループホームを目標に掲げ、随所に職員と談笑する利用者の笑顔が溢れている。昼食の前に行っている「口腔体操」は誤嚥予防にとどまらず、利用者、職員の笑顔づくりにも一役買っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム めくもり(うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼とユニット定例会議で理念の確認し、各ユニット毎に毎月のユニット目標を決め日々の支援に実践している	個人の尊厳と自立した生活の実現を柱とする法人設立目的に沿って、一日を笑顔で楽しく過ごすことをグループホームの目標としている。「レクで外気に触れ季節を感じてもらおう」など、非番者も参加する2ヵ月毎のユニット会議でその時々行動目標を全員で定め、笑顔で過ごす毎日を支援している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育所・学校の行事への見学、施設行事への余興の協力が定着している	玉川部落の一員として施設周辺の草取りに参加し、3ヵ月毎に発行している「結の里・めくもり便り」は地域の全世帯にも届けている。お正月、敬老会へは近隣の玉川保育所の園児が決まって訪れ、婦人会も行事の度に参加している。畑仕事をしている利用者を見ればご近所の方が気軽に手伝ってくれる関係にある	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より畑を借り、畑の作業にお手伝いをしてもらいながら、ご近所の方も集まりコミュニケーションが自然に出来てきている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は運営推進委員の方の紹介で夏祭りの盆踊りの歌い手の方より協力して頂いたり、会議で地域への交流のアドバイスを頂き助かっている	施設全体で合同開催している。それぞれの利用状況、活動状況を細かく説明し、外出、畑の手入れ、お誕生会など利用者の日常生活や運営状況を理解いただけるよう努めている。消防関係に詳しい委員からは避難誘導の在り方、民生委員の委員からは地域のお年寄りへの支援など、活発な提案、意見交換がなされている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、地域ケア会議へ参加し、各機関との連携に取り組み協力関係作りを心掛けている。利用者の情報をやアドバイスをもらい積極的に関わりに努めている。	村主催の地域ケア会議は、必要とする方への支援について具体的に相談できる場となっている。管理者が役場に出かけ様々な相談をすることは勿論あるが、久慈地域の介護関連機関は地域ケア会議やそのメンバーが加入する「北三陸ネット」で容易に情報を共有し、相談できる仕組みが出来ているとしている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束について定期的に学び職員全体が理念も基にしながら理解していくよう取り組んでいる	法人全体で取り組んでいる各種委員会(環境整備、安全対策、編集)があり、ケアマネを中心にマニュアルの作成、研修を行っている。言葉による拘束は、特に気を付けており、不適切な言葉には、その場で注意をしている。人感センサーなどの拘束に繋がる機器は一切使用していない。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、施設内研修では、言葉の虐待に力を入れ意識の向上に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の施設長、相談員、管理者は外部の講習に参加し必要時に備え学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明を行っている。また入所から年数経過したり介護度・利用者の状態が変わった際は改めて必要事項の説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が常に家族や利用者からの意見や要望を聞けるような姿勢で対応していく様に心掛けている、また共有し問題解決は皆で話し合い慎重に答えるように努めている	よく来所する村内居住家族には意見や要望を聞く機会が多く、着換え、整容の要望が出される傾向にある。遠方の家族には電話で様子を伝えている。	来所できない家族の安心にも繋げるため、入居者の様子などについて、最近の写真を添えた担当職員からのお手紙を毎月又は季節ごとに請求書送付時に一緒に送ることについて検討されることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例のユニット会議では職員から毎回、積極的な意見が上がっている。皆で話し合い利用者考えた話し合いをし、実行している	職員からの意見や要望は、いつでも言える聞くの関係にある。利用者の異変を察知できるようトイレのドアを開扉しカーテンを吊るしたのも、居室のカーテンを入居者の希望する物に換えたのも職員のアイディアによるものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭環境、就業条件を考慮し勤務時間等に反映させ、働きやすい環境に勤めている、給与についても経験・資格を考慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の為に研修、希望の外部研修には希望に沿う様に配慮している、資格取得後は昇給アップ・正職員への移行に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会、GH協会の講習会・交換研修会への積極的な参加、北三陸塾での交流会に参加に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報を基に入所初期は丁寧に時間をかけ傾聴し早く安心した施設での生活を送れるように努めている。また情報はカルテに必ず記録し職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の入所初期と同様だが、常に家族からの思いを聞き、家族と支援についてサービス計画を基に共有できる関係作りに心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が職員を信頼してくれる関係性作りに努めてながら家族にも確認し、利用者の変化に相談しながら対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の面会時には普段の様子を伝え、また家族の協力で安心した生活への支援に繋げ、職員と利用者が信頼できる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と小まめに連絡を取り、些細な事でも記録に残し本人の不安を取り除き、家族と施設と利用者を支える関係に務めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人・知人の面会時は、ゆっくりと過ごして頂き継続に繋がる様な環境作りをしている。	日帰りで帰宅するほか、お盆やお正月には家族と数日過ごし交流が図られている。通院時、家族とともに好みのお店での買い物や食事を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内やグループホーム内での行事を通じて利用者同士の関係作りに努め、孤立しないように、職員が仲介になり声掛けし努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退所時には、退所後の支援について説明をしているが、殆どフォローの要請もなく併設の特養施設に移られた方とは合同の行事等で交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情・会話の中から利用者の意向をくみ取るよう努めている、内容は記録に残し家族の協力が必要な場合は相談しユニットで検討するなど、移行を大切にしている	想いを伝えることが困難な方には、笑顔で会話しながらちょっとした表情の変化から想いを読み取り、カルテに記録し全員で共有している。管理者は楽しく過ごしている時の笑顔が今の想いを一番物語っているとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報から会話を広げ本人・家族・親戚等の面会の方から聞き生活歴や様々なサービス利用の経過の把握を行っている、入所年数が経過してもまだまだ新しい情報を聞く事も多く、常に職員間で情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	調理の手伝い、掃除、食材の運搬等で個々の役割を持ちながら、引きこもりや筋力低下を防げるように、個々の有する力等を把握して支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で情報共有し定期ユニット会議で検討内容を出し問題解決に必要な情報は事前に集め利用者の現状に合わせた介護計画作成に努めている	担当職員とケアマネが中心になって、案を作り全職員で検討の上で家族の了解をもらっている。利用者の現状把握は、看護師とともにその都度記録した「カルテ」や業務連絡ノートを基本とし、医師の意見も参考にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の小さな変化に気付くように日々の関わり・観察・伝達・記録を大切にし毎日の朝礼で情報共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれずに、利用者を一番と考え法人内で協力を、柔軟なサービス・支援の提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校行事・見学、お祭り見学、病院受診、買い物等で地域の方や関係者から声をかけてもらい、地域での暮らしを楽しんでいる、ボランティアや訪問も増えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医との関係を大切にして受診後は家族へ情報提供者を用意し、必要な時は職員も付き添い、また電話で相談し適切な医療を受けられるように努めている	従前のかかりつけ医に通院している例が多い。通院介助は原則家族とし、日々の利用者の様子を記載した情報提供書を託している。日常の健康管理は、毎週1回特養の看護師が訪れているほか、協力医の歯科医師も毎月1、2回訪れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護職員が利用者の状態を観察して情報の共有が出来ているため、心身の変化時は相談しやすく適切な対応を迅速に取れる状態である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、施設では入院手続きが終了まで関わり情報提供している、また入院中も連絡を取り退院後の安定した生活や治療に繋がる様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者にとって一番良い環境を、当初から家族と確認し、重症化した場合は利用者・家族・看護・介護と話し合いを行っている、また看取りの講習会には積極的に参加している	食事が困難になった場合、家族と協議の上で県立病院に入院することが通例となっており、看取りの経験はない。管理者は、自宅で最期を迎えるお年寄りと同様にお世話することがグループホーム本来の姿と考え、どういふ進め方をするか、職員皆で時間をかけてでも考えていきたいとしている。	看取り介護を表明していることから「看取り介護の指針」について検討を進めながら、今後を見越し、まずは看取りそのものについての基本的な研修を職場で始められることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全対策委員会、研修委員会の勉強会に参加し常に急変・事故発生時に備えている、利用者が年々高齢化していることから意識を高く持ち勉強会や訓練に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度も部落の消防団の協力を得て避難訓練を行い、地域の方の協力も継続し呼びかけている、運営推進会議と同日開催し協力してもらうこともできた	高台に位置し河川もないことから火災と地震を想定した訓練を年に2回行っている。施設（結いの里）全体で消防団や地域の協力の下で、推進会議開催日に委員も参加して訓練している。一時避難所に指定されていることもあり、村で時折発生する停電に備え自家発電機を用意してくれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室への出入りの配慮、個々の病気への配慮に気をつけて支援し、生活歴や思いを尊重しプライバシーを大切にできるように努めて対応している	何よりも笑顔で丁寧な言葉遣いを心掛けている。持病を持つ利用者へは、食べたいものに配慮しながら、量を少なめに或いは形あるものは小さめにするなどして、本人の気持ちの満足に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物・役割・リハビリ等、本人の希望や体調、気分にも添いながら、施設生活が窮屈にならない様に、自己決定出来る様に見守りながら働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は全員で揃って食べて頂くようにしているが、食事・入浴・役割・生活リズム等、心身の様子を見ながら本人の意向を大切に安心した生活に繋がるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・気候を考慮しながら本人・家族と相談し行事・外出に添った身だしなみのお手伝いをしている、衣替えや補充も基本的には家族だが、必要時は利用者の買い物に付き添い、その方らしいお洒落が出来る様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の病気を考慮し嗜好に添い、お誕生日や毎週火曜日(昼食)は利用者の好みを取り入れた献立日を設け食事の楽しさをいつまでも持てるように努めている	主菜の献立は管理者が作るが、その他は冷蔵庫にある食材に応じてその日の当番が利用者の好みなどを考慮して用意している。食材は近隣のストアに注文し利用者が買い出しに出かける事はないが、より楽しい食事にするため、毎週1食はそのストア特製のお弁当が出され、また毎月第一月曜日はお寿司の日としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立に野菜多めを取り入れ、水分摂取も個々に把握し定期受診での検査結果や主治医との連携、体重測定等で一人ひとりの栄養状態、体調管理に努めている、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人で村内の歯科医の協力を得て口腔ケアの取り組みをしている、定期健診、こまめな治療、ユニット毎に毎月の口腔ケア目標を設定し常に口腔内環境のケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやリハビリパンツへ移行時も利用者の尊厳と残存機能を大事にしながら、定期的にトイレへ誘ったり多様なパットを試すなど慎重な支援に努めている	尿意を感じ自分でトイレに行ける方が、9人と自立度が高い。必ず職員が見回り、後始末を支援している。介護用品をあれこれ試し、状況にあったものを使用し、快適に生活をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保・野菜の味(利用者個々の好みの味)・運動への働きかけの工夫等を行い自然排便に繋がる支援しているが必要な方には医師と相談し個々に合った便秘薬を使用し穏やかな日々繋げ様々に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安となる曜日は決めているが朝に入浴予定を伝え本人の希望で変更等しADL低下、その日の状態を見て中間浴で対応するなど、入浴をゆったりと楽しめるように好みを把握し支援している	週2回入浴とし、日曜日を除く午前中に早番職員が支援している。ホームは個浴槽だが特養の機械浴も使用できる。拒否の強かった利用者も職員の声掛けで改善してきている。着換えは前日に職員の支援を得て脱衣所に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人の時間も持ってもらいながら休息は思い通りに過ごされているが、昼夜逆転気味の方や引きこもり気味の方には日中の活動の働きかけを行い安眠に繋がるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴を基に受診後の処方確認を行い、変更時はカルテ・連絡ノート・申し送りユニット職員全員が周知出来るようにしている、必要な場合は別のユニットにも朝礼で報告し周知に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の流れの中で役割が出来ている、常に職員は感謝の気持ちを忘れずに、お礼の言葉を掛け利用者の張り合いに繋がるように努めている、行事・レクリエーション・献立で季節を感じてもらい気分転換を図れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は雨天が続いたが気候の良い日は外へ散歩に行ったり、ドライブを急遽、決行したりしている、今年度は家族と水族館へ行き、家族との交流にも努めながら工夫している	三陸海岸を望む地にホームがあるが、それでも季節ごとに車2台で車椅子の利用者も一緒に全員で隣の市や町の景勝地に出かけている。ホーム裏手の農村公園は戸外の散策に適している環境にあるが30分程かかるため、利用者の気分転換は、施設内の特養を覗いたりする機会が多い。今年は雨の日が多く畑に出る機会も限られたとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時、本人が所持希望される方は認知症施設状況が困難な旨を説明し了承して下さる方は所持しドライブや定期的な施設訪問販売で買い物を楽しんでいる、本人管理困難な方も施設が預かり使える様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方にいる方は電話や手紙を、近くにいる方で来設がなかなか困難な方には電話をお願いし利用者には家族との繋がりを感じて安心して施設で生活を送れるようにお願いしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は衛生面を第一に、そして春から秋は季節感を感じる草花を飾り、行事や畑仕事の写真も飾る事で自分達の生活と感じ、居心地よく過ごして頂ける工夫に努めている	オープンキッチンと畳敷きの小上がりが一体的に配置され、淡い色彩でホーム全体が明るい。清掃も行き届き異臭など勿論ない。共用空間には丸い柱があり懐かしい。指定席のテーブルには季節の花が飾られてある。昼食時三陸鉄道が玉川駅に停車し「あー来たなー」と皆の目が列車に向いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昔からの知り合い同士でソファで談話したり、趣味・ゲームでテーブルを囲まれる様子が毎日、見られる、また一人でゆっくりテレビを楽しんでいたり廊下を散歩して庭の草花や駅の風景を楽しむ姿がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族・職員が相談し居心地の良い居室を作れるように馴染の物・季節の物を持参してもらい本人が心地よい居室になるように努めている	備え付けは、ベッド、床頭台、小型チェスト、洗面台であるが、個別に思い思いのカレンダー、津波でなくなった旦那さんの位牌などがある。テレビを設置している方もいる。入口の暖簾は各自の好みのものである。居室の清掃も行き届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが自立した生活を送れるように居室には記名ではなく目印を、トイレには張り紙をし、車いす・シルバーカーで一人で自由に移動できるように安全面を考えテーブル、居室の家具の配置に努めている		